

博士最終試験報告書

2024 年 01 月 31 日

総合リハビリテーション学研究科長 殿

審査委員 村尾 浩



審査委員 大庭潤平



審査委員 松原貴子



博士最終試験の結果を下記のとおり報告します。

記

氏 名	論 文 題 目	評 価
松尾知洋	循環器疾患患者に対する有酸素運動時間が退院後 Quality of Life に及ぼす影響 —回復期リハビリテーション病棟での検討—	合格

以上

博士論文審査結果報告書

2024 年 01 月 31 日

論文提出者		論文審査担当者	
専攻領域	リハビリテーション科学	審査委員（主査）	村尾 浩
専攻分野	基礎生体機能・病態解析学	審査委員（副査）	大庭潤平
氏名	松尾 知洋	審査委員（副査）	松原貴子
論文題目 循環器疾患患者に対する有酸素運動時間が退院後 Quality of Life に及ぼす影響 —回復期リハビリテーション病棟での検討—			
審査結果 論文提出者は、西暦 2000 年に本邦で定義された回復期リハビリテーション病棟において、脳血管疾患や運動器疾患に対するリハビリテーションの効果については明らかになりつつあるが、循環器疾患に対するリハビリテーションの有用性について未解明なことが多いことを緒言で述べ、回復期リハビリテーション病棟に入院した循環器疾患患者 40 名を研究対象者とし、有酸素運動を含むリハビリテーションが Quality of Life（QOL）に及ぼす影響について明らかにしようと試みた。 回復期リハビリテーション病棟に入院した循環器疾患患者は、心疾患重症度が重症であることを述べたうえで、回復期リハビリテーション病棟退院後 6 ヶ月時点での研究対象者の QOL は、健常高齢邦人と比較すると低値であるものの、研究対象者のほとんどが自宅での生活を送っていた。また、退院後 6 ヶ月時点での QOL と影響する因子が、狭義のリハビリテーションである理学療法・作業療法中の有酸素運動時間であることを明らかにした。 これらの点より審査委員会は、提出された論文が重要な知見を集積しており、新規性のある業績であると認める。 論文審査および最終試験で、松尾氏は論文の内容を適切に説明し、主査、副査からの質問に対しても的確に回答した。 以上より審査委員会は、松尾氏を博士の学位を得る資格があると認める。			
		審査委員（主査）	村尾 浩 